

株式会社高速と 企業立地協定を調印

株式会社高速(仙台市・赫規矩夫代表取締役会長兼社長)の北上産業業務団地への



調印後に握手を交わす赫規代表取締役副社長(右から2人目)、高橋市長

立地が決まり7月25日、本庁舎で企業立地協定調印式が行われました。

同社は食品用トレーやラップの食品パッケージ用品などの食品軽包装資材、食品容器の販売を行い、全国51カ所、県内4カ所に販売拠点を展開。業容拡大に伴い、盛岡営業所と一関営業所が手狭になったこと、さらに同営業所のほか、三陸営業所、大船渡営業所および横手市のグループ会社のハブセンターの役割も担い、さらなるサービス体制の向上を図ります。

第71回国民体育大会(希望郷いわて国体)開催が正式決定

第71回国民体育大会北上市準備委員会の第2回常任委員会は7月26日、江釣子地区交流センターで行われました。

7月24日に開催された(公財)日本体育協会理事会で、開催が正式決定した国民体育大会に向け、開催準備総合計画の見直しや宿泊基本計画案、競技運営基本計画案など11件が審議され、承認されました。

同国民体育大会は平成28年10月1日〜11日の間、県内で開催され、北上市では総合開閉会式、正式競技の陸上競

技、ソフトテニス、バドミントン、体操新体操、デモンストレーションスポーツのフライングディスク、ペタンク、エアロビック、ヒルクライムが行われます。

「きたかみ市民の生活ガイド」協働発行に関する協定書を調印

市は、市民の皆さんに安心で快適な暮らしに役立てていただく「きたかみ市民の生活ガイド」を株式会社サイネックス(大阪市・村田吉優代表取締役社長)と協働で発行するため9日、本庁舎で協定書調印式が行われました。

同ガイドは、市の窓口業務や各種手続きの仕方、ごみの出し方などの行政情報のほか、医療機関案内や観光、地図といった地域に関する情報を含んだ総合情報誌として発行予定。市が行政情報を提供し、企業が冊子の作製と広告募集を行い、発行費用を全て広告収入で充てることで、市の財

総会や行事への参加率の高さが認められ 江釣子幼稚園PTAに文部科学大臣表彰

毎年度優秀な実績を上げているPTA団体を表彰する本年度の優良PTA文部科学大臣表彰団体に江釣子幼稚園PTAが選ばれました。

同PTAは総会などへの出席率の高さや運動会などの幼稚園行事への積極的な協力を行うなど保護者の意識が高い

こと。また、江釣子地区交流センターと連携した広報紙への幼稚園情報の掲載、北上みちのく芸能まつりの「子どもみこし」への参加、地域の神楽を伝承する活動を行うなど地域との連携を密にした活動が評価されたものです。



今年度の芸能まつりにも元気に参加した江釣子幼稚園



国体に向けて行われた第2回常任委員会



調印後に握手を交わす村田代表取締役社長(右)と高橋市長

政負担の軽減につながります。来年1月から全世帯に配布し、転入者へも配布する予定です。

4年連続で住みよさランキング 県内1位

全国の市を対象にした「住みよさランキング2013年版」(東洋経済新報社)が発表され、北上市が東日本大震災の影響でランキングが公表されなかった平成23年を除いて4年連続で県内1位になりました。

北上市は人口一人当たりの小売業年間商品販売額などで算出される「利便度」(全国88位)と都市公園面積などで算出される「快適度」(同210位)が高く評価され、790都市中168位。北海道・東

北でも10位になりました。

「住みよさランキング」は、同社が国などの公的統計を基に、現状の各市が持つ「都市力」を安心度(人口一人当たりの病院・一般診療所病床数など)、利便度、快適度、富裕度(納税者一人当たりの課税対象所得額など)、住居水準充実度(世帯当たりの住宅延べ床面積など)の5つの観点で、14指標から偏差値を算出し、その単純平均を総合評価としてランキングしたものです。全国1位は2年連続



で千葉県印西市。同ランキングは平成5年から23年以外毎年公表されていて、今年で20回目となります。

参議院議員通常選挙の開票結果

第23回参議院議員通常選挙の投票が7月21日、市内56力所の投票所で行われました。開票の結果、市内の投票率(在外含む)は岩手県選出が61.09%(前回比0.18ポイント減)、比例代表が61.08%(前回比0.18ポイント減)でした。詳細は次の通りです。

候補者名(得票順)	得票数
平野 たつお	19,941 票
せきね 敏伸	11,876 票
田中 しんいち	7,728 票
吉田 はるみ	3,413 票
菊池 ゆきお	2,174 票
高橋 けい子	451 票

※比例代表は省略します。

- 当日の有権者数(在外含む) 75,889人
- 投票者数(在外含む) 46,364人

市内の避難者状況 (7月31日現在)

田野畑村	宮古市	山田町	大槌町	釜石市
1世帯	11世帯	28世帯	74世帯	56世帯
4人	19人	62人	143人	138人
大船渡市	陸前高田市	宮城県	福島県	市内間
17世帯	34世帯	22世帯	20世帯	4世帯
33人	59人	52人	54人	8人

※市で把握している人数です。市内に避難している人で、まだ北上市に連絡していない人はご連絡ください。

大櫓は生きています



今年4月、本通り二丁目にある「黒沢尻の大櫓」に車が衝突し、それがきっかけで伐採する事になってしまった。この大櫓は藩政時代の町割りのシンボルであり、自然分布域の北限にある貴重な樹木として、市の文化財(天然記念物)に指定していたものだ。道路整備の際には、わざわざ車道を迂回させてまで残した巨木で、何とか残せないものかと「きたかみ巨木の会」に所属していた樹木医に相談。さらには岩手県内の樹木医を探し当て、診断を試みるも、その結果は残念ながら「倒木の危険大」であった。

本来であればこの時点で通行止め処置を取るべきなのかもしれないが、中心市街地の主要道路であり、市民生活への影響を考えると伐採まで

の間、このまま倒れずにいてくれと祈るばかりであった。二週間後に迫った北上・みちのく芸能まつりでは多くの車両、人々がこの下を通る。それまでがタイムリミット。重要な文化財と言えども市民の生命を危険にさらすことはできない。既にレッドカードが出してしまったものを、イタズラに結論を引き延ばすことも出来ない。正に苦渋の決断とはこのことだろう。

伐採の直前、大櫓の元所有者の関係者から神事の申し出があり、執り行っていた。ご承知の通り、神事を行うことのできないのが行政であり、本当にありがたい申し出であった。伐採を告知してからわずか10日間しか無かったにもかかわらず、多くの市民が大櫓の伐採に立ち会い、その勇姿を惜しんでくれた。樹木医の話では、しばらくすると切り株から新しい芽(ひこばえ)が出てくるだろうとの事。それが大きく育って、巨木になるまで、あと何百年かかるのだろうか。私たちの子どもや孫、さらにその子や孫の代になるまで、生き続けたいことを祈りたい。